

No.107

# 公民館だより

平成11年6月

宮津市字由良  
由良の里センター内  
由良地区公民館

## 大師山(天王山)とお大師さん(1)

公民館長 酒田 治

由良岳は、今日も朝日を受け、新緑が美しい光彩を放ち、何かを語りかけているようである。この美しい山・川・海の恵まれた環境・自然の豊かな由良を大切にしていかなければと思う。

四月二十一日、妻が昼前にお祭りまで、道端にお祭りさされている、東山と西山の一〇〇体余りのお大師さん(石仏)にお参りして来たんだけど、食事を済ませてから、私が道案内するからお参りに行かないか」と話をするので、突然のことで驚きもし、お参りに行ってみようかな

とも考え、由良岳を見上げた。

春深い山は裾野から新緑が映え、途中の官公造林の杉、桧林が黒々と横に連なり、又頂上に向かつて新緑。

由良岳は高く、空は青く、薄雲が流れ何とも言えない美しさである。

その美しさと一〇〇体余りの石仏の話に引かれ、牛に引かれて善光寺ではなく、お大師さんへと道案内を頼むことにし、新緑の中に入っていく。

最初は、浜野路、港地区の墓地の上、浜野路の山の神入り口近く、大きな杉の木の下にポツ

ンと一体、淋しそうに佇む姿が哀れである。いろいろな想像をしながら次の石仏さんとの対面を楽しみに歩みを移した。

多分昔だったら天王山への道が(参道)あったものと思われるが、長い歲月、今は土地もあれ道らしき道も見当たらないので、ずうつと遠回りをして、新川添いから体験実習館、安寿荘の所に出て、安寿荘の横より道しるべに従い大師山へと入った。

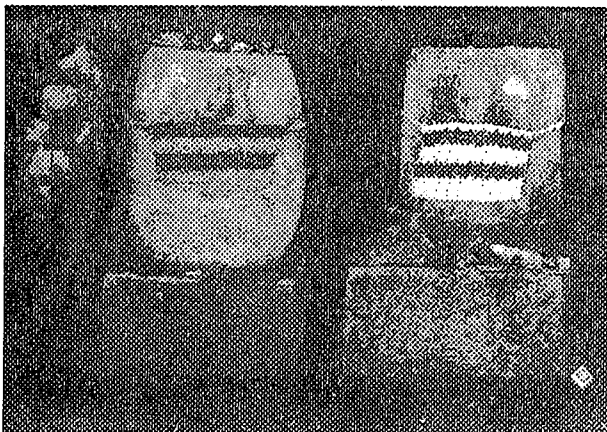
参道は綺麗に整備され、少し歩いたところで二番目の石仏さんと対面、外は快晴木々の間から無数の木漏れ日が燦々と降り注ぎ、サーチライトの様に石仏の頭や顔に柔らかく差しています。誰にさせてもらったのか新しい毛糸の手作りの涎掛け、長い年月を、風雨に晒され、顔の表情も定かない石仏さんと対照的で何とも言えない、ほほ笑ましい姿に思わず手を合わせ、

「何をお祈りしたかは？」私が知

るのみ。  
足は軽く次の石仏さんへの出会いを楽しみに坂道を上って行く。

(注)

天王山にはその昔、由良城が築かれていたと聞いている。現在、その案内板が立てられていて、城趾には土塁と石垣の跡がわずかばかり残っているといわれている。



平成十一年度

# 由良地区公民館役員名簿

主事 飯澤 登志朗

## 【運営審議会委員】

(順不同敬称略)

- 由良小学校長 水谷 洋子
- 脇 自治会長 矢野 学
- 宮本自治会長 枘岡 豊
- 浜野路自治会長 大森 秀朗
- 港 自治会長 森川耕一郎
- 下石浦自治会長 新宮 義男
- 上石浦自治会長 山下 正男
- 前公民館長・市議会議員 山下 清一
- 学識経験者 四方 寿朗
- 由良幼・小学校PTA会長 東野 宗雄
- 栗田中学校PTA副会長 坂下 衛
- 由良婦人会長 藤井 陽子
- 由良老友会長 升田 重一
- 子供会連絡協議会会長 左近 文昭

## 【公民館役員】

公民館長 酒田 治  
主事 飯澤登志朗

## 【分館長】

脇 分館長 佐原 善弘  
宮本 分館長 升田 栄二  
浜野路分館長 中西 英貴  
港 分館長 山田 博義  
下石浦分館長 岸田 幸夫  
上石浦分館長 岸田 秀樹

## 【幹事】

(文化部) 部長 中西 衛  
副部長 川崎 清

上良 宏之 山本 良和  
由利 昭弘 糸井 治孝  
岸田 国彦 中西 伸子  
大畑 忠夫 岸田 幸夫  
山下 浩二 塩田 禮子  
田中 規子  
(体育部) 部長 有本 敬  
副部長 藤本 守

副部長 川崎 智子

編田 一則 浜本 喜彦  
岸本 和子 中西 隆光

浜崎 利雄 竹田 成美  
千坂 幸雄 中西 一孝  
有本 仁美 柴田 克己

綱本 典子 山下 正貴  
山下まさ代 藤井 陽子  
浜田美千代

(体育部講師)  
小室 文雄 北野 薫  
岸田 剛 玉垣 泰子

## 平成十一年度事業計画

### (文化部)

盆踊り大会 八月十四日  
文化祭(婦人会協賛) 十一月三日

人権学習会 八月二十九日  
四部対抗区民囲碁大会 二月六日  
自治学級 二月十三日  
生涯学習講演会

(婦人会共催) 二月二十日  
「公民館だより」発行 五月・九月・一月  
由良歴史年表編纂事業 周年

### (体育部)

由良岳登山(第三十三回) 四月二十九日

第十一回

宮津市地区対抗駅伝競争大会 六月六日  
女子ファミリィ  
バトミントン交流会 六月十二日

団体対抗ソフトボール大会 六月十三日  
四部対抗球技大会

(野球・ソフトボール)  
区民運動会 八月十四日  
宮津市民駅伝競争大会 十一月三日

グラウンドゴルフ大会 (中年対象) 日程未定  
四部対抗バレーボール大会 (男・女) 十一月十四日



# 行事報告

主事 飯澤 登志朗

◎二月七日

四部対抗バレーボール大会

優勝(男子) 第三部

(女子) 第三部

早朝から各チームの選手が続々と小学校に集合、日頃の腕前をと勇んでいる人や人数合わせに引っぱり出されて渋々と言った顔が見られる大会でした。

しかし、試合が始まると試合前の雰囲気が一転、白熱したゲームの連続で楽しい一日が無事終了といったところでした。

終了後の意見として寒い時期で手が痛い、震えながらの弁当、選手が集まらない、等々聞かえていましたが開催時期の見直しが必要ではと反省しています。

◎二月七日

四部対抗区民囲碁大会

今年も、由良の里センターを会場として熱戦混戦の一日でした。

た。

将棋は指すといい、囲碁は打つといわれますが、なぜと考えるより先ず楽しく過ごせたらと思えます。

おか目八目、一般に広く使われていますが当日もわか評論家が現れたり解説者になったり、の会場でしたが今後は底辺を上げて囲碁を楽しむ人を増やしていきたいと考えます。

優勝 第一部

◎二月十二日

自治学級

(講師)

市議会議員 山下 清一氏

自治連会長 山下伊左衛門氏

山下清一氏から

地区の皆様のご支援をいただき議員として活動をしています。

と云う挨拶があり、現在までの議会の取り組みについて報告があ

りました。

内容の一部を紹介しますと、宮津市は財政が厳しい状況のなか地域の活性化や高齢福祉が重点的に取り組まれている。

道路について、京都縦貫道は大江・宮津間が工事中で平成十四年春完成の見込み、鳥取までの延長が検討されている、道路が整備されると京阪神が近くなるので観光産業にも影響があり期待している。

デイサービスセンターについて、当初「もみじ公園」を予定していたが認可が出ず「由良の里センター」北側に決定した。平成十一年度中に完成するが広さ三〇〇平方メートル、予算一億四千万円程度となる。

東部不燃物処理場について、現在栗田地区に整備しているが、今後十二年位は処理出来るが「ゴミ」を少なくすることも大切であり皆で考える問題である。

流域下水道について、総合基

本計画を作成中である、現在の宮津市の進捗率は三四%程度で由良、栗田、上宮津、日置、養老地区は未実施である。

山下伊左衛門氏から  
各自治会の協力を得ている。市、府、国への要望が必要であり政治の力が必要と考えている。

海岸関係で人工リーフは四基計画されているがまだ一基が完成していない、海岸のゴミの回収に二〇〇人を動員しダンプ六台、約二二〇トンあった。

駅前道路舗装は五メートル巾で実施し学校通用門から幼稚園まで歩道として白線を入れた。宮津市への要望は毎年行っている。

主なものは

●農道の市道への編入。

●KTRガード下の歩道拡幅。

●老人福祉サービス施設。

●下水道早期完備。

●温泉開発支援。

その他として、由良の里センターに車椅子の配備や熊被害の

経過、被害状況、民生委員の改選等が報告されました。

(質疑)

- 下水道について、市政懇談会や勉強会をやってきた。今後も前向きに取り組まれたい。
- デイサービス施設の排水はどうするか、駅方面か府道側溝なのか。
- 生涯学習教室や老人憩いの家、公民館倉庫が取り壊しになったがその後の対策はどうなるか。
- 学校やデイサービス施設の排水をきれいに流しても個々の家庭排水の対策はどうか。
- 自治学級への出席者が少ない。内容に問題があるのでは。
- 自然遊歩道(石浦から脇)について国の指定がある。地元として取り組んでほしい。
- 舞鶴・宮津間の鉄道電化を促進してほしい。
- 区民運動会について、若年層の減少で選手が集まらない。プログラムの見直しをされたい。
- 小学校との合同開催は。

等々の質問がありました。

回答として、

- デイサービスセンターの排水は小学校と同じく浄化したものを駅前側溝に流すと聞いている。
  - 由良の里センターの利用が多くなるので内部改築を要望している。事務室の移転と一部屋増築を考えている。
  - 自治学級は皆の興味のあるものを取り上げていきたい。
  - 遊歩道は聞いているが、市との協議は現在のところ無し。
  - 区民運動会は、小学校は五月に実施するので合同は無理、現在の雨天中止ではなく順延も考えてみたい、また年齢別について考えていく。
- ◎二月二十一日  
生涯学習講座  
(介護保険について)
- 市役所から係りに出席願います。四月からスタートする制度について説明を受けました。老後の大切なことですから、ご不明の点は市役所まで。

## 地区の皆さんへご挨拶

自治連合会会長 大森秀朗

今年度不肖にも私が、浜野路自治会長並びに、自治連合会会長と言ふ大役を引受けることになりました。

昨年三月まで一介のサラリーマンとして働き、当由良地区はもちろん地元浜野路地区についても理解していない私が、重責を双肩に担いながら歩みはじめたのが今の姿です。

過去多くの功績を残された偉大な諸先輩の足跡を汚すことなく、住み良い地域づくりをめざし皆さんと一緒に頑張って、この一年間努力していきたいと考えていますので宜しくご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い致します。

さて、この四月以降二ヶ月間各地区自治会長様方との話の中で私が感じた事について書かせて頂きます是非皆さんも一緒に考えて頂きたいと思えます。

一つは、由良各地区自治会長が一年制であり、自治連合会も当然ながら同じ状態となります。過去のよう地区の諸問題解決が可能であるのか………

又、発展的な前進の取組みができるのか………

二つ目は、近年農業環境は高齢化が進む中厳しく当由良地区でも例外ではありません。当地区は宮津市でも最高齢地区でもあります。この環境下でここに稲作一つを取っても生産調整等により、由良地区にも多くの荒廃田が生れようとしています。今後どのような対応で進むのか大きな問題があります。

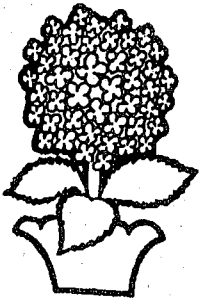
又、現在各地区自治会長が農家組合長を兼任している現状ですがこれが良いのか皆さんも一緒に考えて頂きたい。

三つ目は、由良地区において数

年前からいろいろな会合等で話が出ています。下水処理施設の建設であります。先般脇地区より下石浦地区まで歩いた時どの地区を見ても海・川へ生活排水が流され臭気さえ感じる現状であります。当地区は観光地でもあり早期実現に向け地区あげての取り組みが必要ではないかと考えます。この問題については地区の皆様方と十分ご協議願ひ取り組んで行きたいと考えています。

以上三点について各自治会長様方と話し合つた問題点として、今後取り組んで行きたいと思ひますので是非関係する方々のご協力をよろしく願ひします。

最後になりましたが、地区の皆様さんを始め関係団体の皆さんの一層のご協力をお願いしてご挨拶とさせていただきます。



## 「四人ダンゴで頑張ります」

由良婦人会

藤井陽子

風薫り木々の緑が一段と鮮やかな素晴らしい時候となりました。田には行儀良く並んだ稲が、気持ちよさそうに風に吹かれております。おだやかな、どこかなこの季節、何とも心までが豊かな気分になります。

私も由良へ来て、早や二十年が過ぎ去ろうとしています。月日の流れの早いこと。緑の豊かな山々に、目にしみる青い海、そして由良川、おいしい空気に水、この自然環境に恵まれたこの地でのんびり過ごさせて頂き、弱かった自分がこんなに健康になれ、驚いています。とても素敵なこの地でゆつたり静かに思うがままに暮らしておりましたのに、今回思いがけない大役に戸惑いと不安で毎日

が気の重い日々を過ごしていましたが、出会う方々から「今年はご苦労様ですネ」と声をかけられ「大変でしょうが頑張つてネ、出来る様にすればいいのよ、無理はしないようにネ」と励まされている内に、だんだん心も落ち着いて気持ちの準備も少しは出来たかと思ひます。

引継ぎ以来、大きな行事を二つ、総会、社会見学を何とかクリヤー出来、私たちなりのカラーで歩き始めています。皆様の期待にどれだけ答えられるのかわかりませんが、私達一つの串に仲良く四人ダンゴで頑張りたいと思ひます。諸先輩方、地域の皆様方のご協力を心からお願ひ申し上げます。

平成10年度 「人権標語」入選作品

なりたいね

人の痛みが わかる人

栗田中学校 前畑淳子

## 子どもたちに「生きる力を」

由良小学校長 水谷洋子

「朝日にはゆるる由良の嶺、万波はるけき日本海…」

校歌にも歌われているように由良岳や日本海の風光明媚な自然に恵まれた由良小学校に赴任いたしました。何かとお世話になります。よろしくお願いします。

地域の皆様には、日頃から、本校教育の推進と充実に、格別のご理解とご支援をいただいておりますことに対しまして、心よりお礼申し上げます。

平成十一年度がスタートし、二十一名の園児、百一名の児童と共に、十五名の教職員が、日々、新たな気持ちで教育活動を進めております。

今日、科学技術が急速に進み情報化、国際化、少子高齢化等で、社会が目まぐるしく変化しており、家庭や地域をはじめ、子どもたちの生活や意識にも、

様々な影響を及ぼしています。

このような状況の中で、二十一世紀を目前にし、これからの教育の在り方にも、大きな変革が求められています。

それは、ゆとりの中で、子ども達に、「生きる力」をはぐむということです。

今、求められる「生きる力」とは、一つには、自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する力であり、あと一つは、他人を思いやる心や感動する心など豊かな人間性とたくましく生きるための健康や体力です。

この「生きる力」をはぐくむためには、学校、家庭、地域社会が十分に連携し、それぞれの役割を果たすとともに、バランスよく教育に当たることが大切です。

そこで、本校の教育目標を「自ら学び、たくましく、心豊かな子どもの育成」と掲げ、目ざす子どもの姿を、「自ら学び行動する子」「心豊かで思いやりのある子」「たくましく生きぬく子」としました。

日々の授業においても、知識を教え込む学習から、学び方やものの考え方を身につけたり、問題解決的な学習を出来るだけ取り入れ、体験学習を通して、「生きる力」をはぐくもうと取り組んでいます。

家庭や地域社会においても、「生きる力」はぐくむために生活体験や自然体験、社会体験など、実際の体験活動の機会を広げていっていただくようお願いいたします。

平成十四年からは、学校週5日制の完全実施が始まります。土、日曜日がすべて休みとなり学校外の活動や家庭、地域社会の教育力を、一層、充実させることが重要になります。

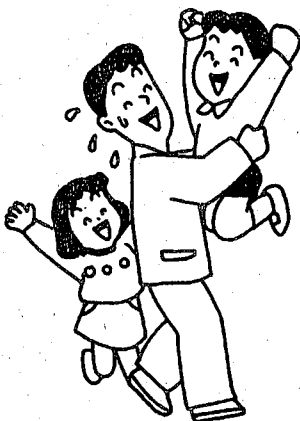
家庭は教育の出発点です。

基本的な生活習慣、生活能力豊かな心、他人に対する思いやり、善悪の判断などの「生きる力」の基礎的な力をはぐくむところといえます。

地域社会では、地域の色々な人たちと交流し、様々な生活体験、自然体験、社会体験を豊富に積み重ねることが、「生きる力」をはぐくむことにつながると思います。

学校、家庭、地域社会が適切に役割分担を果たしながら、手を携えて、「生きる力」をはぐくんでいきたいと考えています。

今後共、地域の皆様方のご協力ご支援をよろしくお願い申し上げます。



# 四部対抗バレーボール大会

有 本 仁 美

厳寒の二月、初めてバレーボールとお付き合いを始めるきつかけとなったのは、この地区対抗バレーボール大会でした。

以来、バレーボールの魅力にとりつかれ、一年中でこの大会が最高の楽しみの一つと言っても過言ではないくらい私にとつて、嬉しい日が続いて来ました。

勝敗にこだわらず、といえは嘘になつてしまいますが、それ以前に同じ浜野路に住んでいない男の人も女の人も一緒になつてバレーボールを楽しみながら一つになり、目標に向かつて皆が精一杯戦う、という雰囲気は私は大好きです。

やはり、愛地区(国?)心あつてこそ団結し盛り上がり方も半端でないことと実感しています。

今回も、大雪注意報が出ているにもかかわらず、試合に向けて男女の練習を行いました。

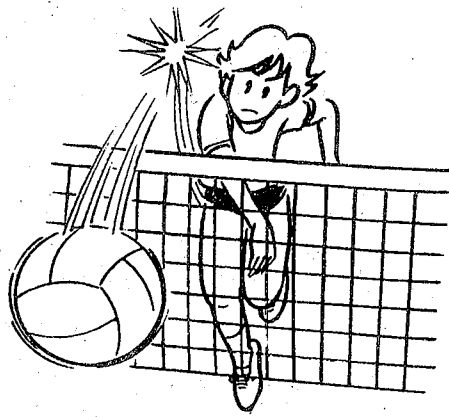
車も危ないほどの大雪の中、長靴を履きズボズボと音を立てながら歩かなければならない困難にもめげず、皆さんが体育館に集まつてくださったのは、どうしてもバレーがやりたいという一心からだとは、私の勝手な思いこみでしょうか。

男の人の強烈なスパイクが飛んでくる時は、手を出さず逃げ回ります、かと思つとすごいズッコケもあり大笑いです。

失敗しても「ごめん」の一言で笑い飛ばします。回転レシーブの真似ごとをしてはひっくり返り宙を飛び、ボールを見失つてうろたえ、お互いに目と目が合えば、ボールも恥ずかしながらポトンと落ちてしまいます。

こんな楽しい時間は過ぎ去るのもすつかり忘れてしまう程早いものです。

当日の試合も、女子の応援団は浜野路男子の珍プレー続出し、すつかり楽しませていただきました。女子の試合も相当な



ものだったと反論されるでしょうけれど...

応援する方もされる方も、とてもすがすがしい気分、無事試合も終了致しました。

バレーボールに限らず、スポーツは忙しい生活の中にも活力を与えてくれます。

皆さんと共に汗を流し、お互いに助け合い一致団結する。スポーツを離れても一緒に汗を流した仲間には心通じ合うものがあります。

初心者だからと言つて二の足を踏んでいらつしやる方があれば、そんなことは全く関係のないことです。少しでも興味がございましたら、いつでも体育館をのぞきに來てください、スポーツの楽しさを少しでも多くの方々と分かち合いたいと思っています。

最後になつてしまい申し訳ございませんが、毎年こうして地区対抗バレーボール大会を計画し、朝早くから夕方までお世話をしてくださいます、公民館の方々、本当に心から感謝致しております。

これからも、活力あふれる由良地域のために是非、スポーツ大会は続けて頂きたいと願っております。

本当に有難うございました。

## 四部対抗囲碁大会に参加して

脇 佐原 善 弘

公民館の行事である四部対抗の囲碁大会が今年も二月七日に、由良の里センター内で和やかに行われました。私も参加させてもらうようになって二年目になります。

各部五名の選手で総勢二十名、錚々たるメンバーが揃っています。

一人が五局(試合)の受け持ちで、一局を約一時間の目標、長丁場の対戦となります。

対局部屋には盤面が十台既に用意され、今や遅しと選手達を待ち兼ねている様です。

朝十時全員が揃った所で、それぞれが適当に対戦相手を選び合います。一勢に盤面に向かいました、よろしくお願ひしますと一礼のもと、いよいよ試合開始です。

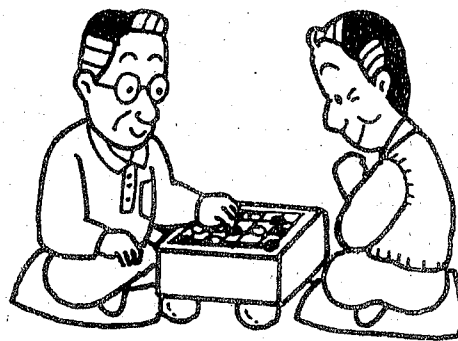
部屋には春の日差しがやさしく差込んでいました。

そもそも私が囲碁を始めるようになったのは勤め先の会社で、昼の休み時間見よう見真似で、何も解らぬままただ石をポンポンと運んでいただけだったのを思い出します、そんなことを繰り返しながら少しづつ碁と付き合う様になってきました。

囲碁というのは盤面上で地(目)取りの試合です、相手方より一目でも多く取れば勝ちとなります、そこで色々とお互いに作戦が立てられます、あの辺とあの辺は相手方の地、この辺は自分の地と、作戦を立てても相手方がそう簡単に承知しません、俗に言う縄張り争いです。そこで罅迫り合いが始まります、守るも攻めるもここが勝負所となるのです。

試合が始まって三、四十分が、たった頃あちらこちらから声が

聞こえてきます、「アッしまった!」とか「オーそんな手があったのか」とか「ウーン参ったな」とか、皆さんいよいよ終盤を迎えて勝負の形勢が決まりかけている様です。



さて一、二局を打ち終わった所でお昼となりました、用意されたお弁当のおにぎりを口にほうばりながら休む間もなく、又三局四局とそれぞれが相手を替えながら続けたの対戦です。各自一局一局が終了する毎に、部屋に張り出された星取り表に皆さんの勝ち負けが記入さ

れて行きます、どこの部が勝ち数が多いのか気になる所です。さていよいよ時間も過ぎて、皆さん最終試合(第五局目)に向かいました、一番大事な試合となります、この試合の勝ち数によつては、優勝が決まる事になるからです。

最後の頑張り所です。

時計の針は三時を廻りました。

それにしても皆さん長時間に亘つて一局一局を真剣に、しかも和気あいあいとした中で全試合が終了しました。

皆さん本当にお疲れ様でした。

最終的に、一部(脇)の選手が頑張り抜いて去年に続いての優勝となりました。





# ごみ雑感

由良子供会連絡協議会

会長 左 近 文 昭

四月下旬に子供会で廃品回収をしていきますが、最近の「ごみ」情勢について子供達の将来を考えさせる事に憂えて、少し述べてみたいと思います。

日常の生活を振り返ってみると毎日の生活そのものが常に余分なものが発生する要素を伴っており、食べ物からは「生ごみ」として、新聞紙は情報伝達の役割が終了すると「ごみ(?)」となります。またジュースを飲んだ後の容器は、これまた「ごみ」となります。

粗大ごみも皆役割を終えると「ごみ」になってしまいます。自動車でも使われなくなるとこれも「ごみ」扱いとなります。では、ごみ収集された後はどのように処理されているのでしょうか、最近よくニュースで話題

になったりしてきますのでご承知の方も多いと思いますが燃えるものはごみ焼却場にて、焼却処分されます。ダイオキシンと言う有害物質はここで発生することは周知の事実です。

このほかに有害物質は重金属類などが、燃えた後の灰の中に沢山含まれていますのでこれもまた、不溶化処理して埋め立て処理されます。従って焼却処理されるといつても消滅するわけではないので、どんどん埋立地が必要となります。

粗大ごみでは不燃物は埋立地に廃棄されます、自動車のようなものでも、シュレッダーという機械で粉々にされ、燃えるものと有資源とに分別され、リサイクルされたり、焼却処分されたりします。

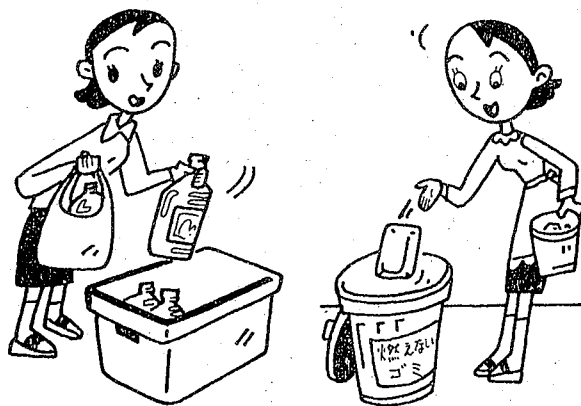
ガラスびんなども粉碎されてブロックなどになりリサイクルされ、歩道路盤材として、生まれ変わっています。

問題は、リサイクル可能なものの取り組みはまだ少数であることで、ごみ処分場が後数年分しか確保できていないという自治体が都市部を中心としてかなり危機的な状況にあるということです。

そこで家電リサイクル法のよりに強制的に義務付けをして、「ごみ」として放出されないような仕組みを考えたりしていますが、私たちの生活の中では、ごく一部にすぎません、そこで国主導として、溶融炉型焼却場へ移行するよう補助金の政策を大規模焼却場にふりむけ、小規模には認めないという方針に交換するような記事がニュースにあつたように記憶しています。

これはダイオキシン対策として、炉の温度をダイオキシンの発生しやすい低い温度ではなく

高温で処理することによって防止するという目的と、未来型の焼却場として、かつて製鉄所の溶鉱炉のようにコークスの替わりに可燃ごみを、また、鉄鉱石の替わりに不燃物ごみを金属非金属



属問わず、溶かして大幅な減溶化、また、再資源化を図る究極の焼却場とする目的をもっています。外見上は素晴らしい姿に見えますが、まだまだ実証プラントの域を出ません。しかし、早急

に解決策を求めています。

ここで私たちは何を考えどのように行動したらいいのでしょうか。

結論としては、「ごみ」を出さない社会の実現に日常生活習慣を考え直すことよって、本来求めている幸せの原点を考え今の私たちの生活、これからの子供達の将来に何が大切かを身の回りから探し求める作業が必要ではないでしょうか。

環境破壊、環境ホルモン問題、土壌汚染等々、大量生産、大量消費による幸せの追求の結果が現在とするなら、ものを大切にすることを培い、安易にものを買い与えない私たち親の姿勢が問われているように思います。

大量の物質にあふれている中で、の飢餓的このころの状態です。今一度じっくりと足元から見直してみるように思いながら、「ごみ」の中に見た雑感を述べてみました。

# 二十一世紀を目指して、学校は

栗田中学校校長 太田 勲

ご承知のように、平成十四年度から学校が完全週五日制になり、土曜日が休みになります。

これにともない、学校で、何をどのように教えるかという「教育課程」の基準が大幅に改訂されますが、その改訂の主なもの、次のとおりであります。

☆三割程度、学習内容が減ります。具体的には週二単位時間が減ります。

☆授業時間が一律でなくなり、す。現在は五十分です。

たとえば、英語を毎日二十五分学習することも可能になります。

☆総合学習の時間が設けられます。二単位時間以上で教科ではありません。

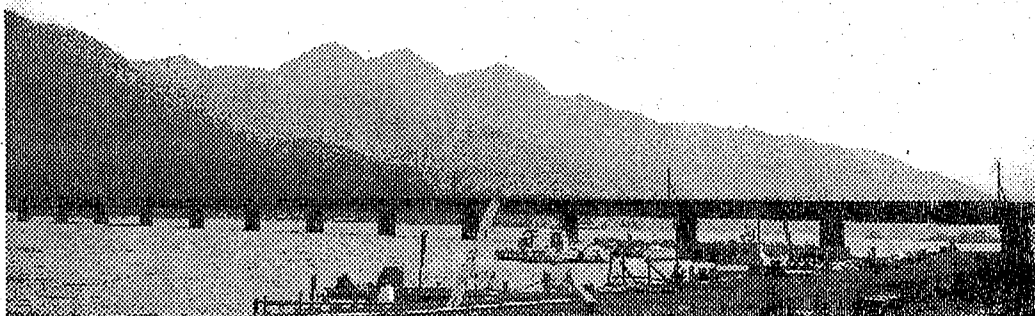
従って、学習内容は学校で独自に考えることができます。

☆選択教科の幅が拡大され、教科と学習時間を増やすことができます。

この改訂のねらいは、「ゆとり」の中で「特色ある教育」を展開し、自ら学び考える「生きる力」を育成することにあります。このねらいに沿って、平成十一年度から移行期に入り、各学校でさまざまな取組がおこなわれますが、本校におきまして、今まで以上に「特色ある学校」を目指し、努力していく所存であります。具体的には、授業参観等の機会を多くし、多くの人に学校に来ていただけるようにすること、地域の物的・人的な教育資源を活用させていただくこと、また、幅広く教育に対するご意見を聞くための教育推進協議会（仮称）の構想も検討

討しています。

今後、地域のみなさま方に、何かとお世話になります。よろしくお願いたします。



# 遊行

## 中西夏江

### 遊行柳

「遊行」という一語に私が憧憬をもつようになったのは、奥の細道”を読んで「遊行柳」を知ったことに始まる。もう昔日のように遠い。

道のべに清水流るる柳かげし  
ばしとてこそ立ちどまりつれ  
と、西行法師が詠んだと伝えられる柳。(福島県芦野の里の遊行柳で、現在のは何代目かの孫) 芭蕉は「清水流るるの柳」と題して

田一枚植ゑて立ち去る柳かな  
と、西行への限りない思慕をこめて詠んでいる。元禄二年(一六八九)句意は「芦野の里の遊行柳の下で、西行が「清水流るる」と詠んだ昔を偲び一休みしていたら、思わず時を過ぎてしまった。前の田ではいつの間にか田一枚の田植えが終わって

る。遊行上人ならぬ私は、それが柳の精の仕業なのかと問うことも忘れ、びつくりして立ち去ることだ」——夏見知章氏の解——

謡曲に『遊行柳』がある。燕村も「遊行柳のもとにて」と詞書して

柳散り清水涸れ石処々  
の名句を残している。寛保三年(一七四三)。

### 遊行上人

月清し遊行のもてる砂の上  
「奥の細道」へ敦賀で芭蕉は八月十四日気比の明神(氣比神宮)に参拝して遊行上人を偲んで

をはじめとして代々の上人たちが、御みずから運んで来てお敷きになった社前の白砂の上に、月が清らかにさして、いかにも神々しいことよ」というのであつて、仲秋名月の前夜のこと。

「遊行上人」とは、時宗の

総本山遊行寺の歴代住職の称。諸国を遊行することをならいと

する。特に開祖一遍、または同宗遊行派の祖、他阿真教を指すこともある。

### 遊行

① 出歩くこと。ぶらぶら歩くこと。② 「仏」僧が修行・説法のため諸国をめぐり歩くこと。行脚。③ 遊行上人の略。

### 上人

① 学徳を備えている、すぐれた僧。② 僧位の名。③ 僧侶の敬称

遊行上人丹後の記録がある。

●元禄十二年(一六九九)八月十七日遊行上人尊証田辺の浄土寺を訪れ、八月二十八日宮津仏性寺へ来る。

●宝暦九年(一七五九)十月遊行上人宮津へ来る。

●安永二年(一七七三)三月二十一日遊行上人丹後へ来る。

●寛政六年(一七九四)五月遊行上人覚印丹後へ来る。

●文化十二年(一八一五)五月十三日遊行上人宮津仏性寺へ来る。

—丹後国・梅本政幸氏著—

案内私達の祖先もその利益に与つたのかもしれない。

### 遊行

昭和五十七年、上田三四二氏の第四歌集『遊行』が出版された。

歌集名を『遊行』とされた理由は、あとがきによると、

遊行の語は、「方丈記」日野山の生活をいうくだりに、「かしこに小童あり。ときどき来たりてあひとぶらふ。もし、つれづれなる時は、これを友として遊行す」とあり、また遊行柳など、西行や芭蕉へのゆかりもうれしい。

仏道修行のために諸国をめぐめるのも遊行なら、あてもなくそこいらをうかれ歩くのもひとしく遊行である。歩きまわることにはかならず憧れのところがあつた。はかなさと憧れと——私的ななかにあるそういう世離れた気分によせて、この二字をえらんでみた。——略——願わく

は、ここらにおける、この遊行でありたい。  
と委しい。

「遊行」の首数は七四八首でその巻頭詠は「那智の滝」六首千年の杉みな濡れて落つる瀧かがやくみづはこずゑに高し  
(以下抜粋)

滝の水は空のくぼみにあらわ  
れて空ひきおろしざまに落下す  
つづいて「高野詠唱」二十三首  
鎮まりがたきものも鎮まれよ  
登りきてあぶらの汗を額にぬ  
ぐふ

祖母が世の朝宵の信は南無大  
師遍照のこゑを聴きてそだち  
ぬ  
後世をねがふ墓かぎりなし  
まわれは余生をおもふ切実に  
して

集中には、「立葵 由良浜回顧」

五首もあり、

立葵さきのぼる花のくれなる  
はかの海浜の療舎にありき

砂浜に坐れば膝に砂をよせな  
ににをさなきをとめなりけん  
当時健康教育研究所の周辺の夏  
は、紅の立葵の花群が風にそよい  
で本当に美しく素晴らしかった。

竹西寛子氏は『遊行』の著者  
を、「まさしく日本の歌のよい  
流れを掬むひとの一人だと言  
うことが出来る。著者の時期を示  
す『遊行』は、著者の居場所を  
示す『遊行』でもあつて、一語  
は同時に著者の芸術観をもよく  
示している。——略——自分  
の手で実際に書き写してみた抜  
粋作品——略——歌は、や  
はり気品のあるものが多い。繰  
り返し読みたくなるものが多い。  
自然に諷んじさせられるものが  
いい。」と称えている。

上田氏の数多の著書の中には、  
西行・良寛・明恵・道元もある。  
京都遊行

昨年十一月一日より京都新聞  
日曜版に連載中の「京都遊行」の  
執筆者、梅原猛氏が五月二日来  
由された。「山椒太夫伝説の跡」

を辿られる為である。氏は著名  
な哲学者で精力的にご活躍。

新緑の木洩れ日の峠首挽松の  
根方に、また青天に透く海波も  
穏やかな汐汲浜の磯に、そして  
如意寺の身替り地藏菩薩——に  
注がれる梅原氏の透徹した視線  
の優しさ。微笑してさらりと仰  
有るユーモアにも親しみの雰  
囲気を醸し出されるおおらかさ。

「山椒太夫」の舞台を由良に  
求めて来訪する人々は、私達住  
民以上の関心と興味をもつてそ  
こに佇つ。

殊に説経節の「山椒太夫」は異  
界のような執深き物語である。  
ゾツとするような残酷さの中か  
ら生の喜びへ転じてゆくエネル  
ギーをも持つている。伝説の跡  
地は重い劇的空間でもある。今  
ここに見え隠れする説経節の光

景の中で、氏はどのような推察  
と愉しみ方をされているのだろ  
うか——と余情は尽きなかつた。

「京都遊行」は五月二十三日  
版で二十八回である。京都府の  
古社寺の故事来歴を梅原氏の深  
い洞察力でその時代の時間に生  
きた人々、そして人々の想念が  
ぎつしりつまつたような造形美  
術について語られている。

古代と現代とが日本だけでな  
く外国の文化とのつながりの中  
で多重層的に展開されている。切  
ないことも張りの利いた音楽の  
ように読者を誘う温かい文体。  
また、カラー写真も見飽きない  
鮮麗さで文と響きあう確かさ。

「京都遊行」は読み終わって  
壮快感が残る。ハードからソフ  
トへ——といわれる現在、ひと  
ときを時空の広がりの中へ心を  
遊ばせたい。きょうも夕映えの  
汐汲浜の岩に安寿が「母恋松」  
は夢の海境を見守っている。

一九九五年五月二五日

# 山椒太夫伝説と丹後由良

由良の歴史をさぐる会

## 四方 寿 朗

白砂青松の美しい由良海岸の西の端に建つ汐汲浜の碑、これを見下ろす脇の公園に、高さ五米の仙台石の立派な石碑が建っている。森嶋外「山椒太夫」の文学碑である。

み、十一月三日文化の日に脇の公園で、盛大に除幕式が行われた。同時に宮津で森嶋外のご息女、小堀杏奴氏の記念講演会をも開くことが出来、すべての行事を大成功裏に終了した。

昭和五十四年当時の由良観光協会会長中西吉之助氏が「由良を広く世間に宣伝してくれた山椒太夫の顕彰碑を建てたい」と発言されたのが事の始まりだった。巷では極悪人を通っている人の顕彰碑は無理、若し建てるにすれば、小説「山椒太夫」を書いてくれた文豪森嶋外の文学碑だろう。というので由良地区

このように由良にとつては、大切な山椒太夫物語だが、①地元の人には案外関心が薄い。「他所の人に尋ねられても、話の筋がいろいろあつて、どれが本当かよく分からない」という声も聞く。そこで私が浅学ながら次にその解説を試みる事とする。

あげて「建てる会」が結成された。顧問、相談役に当時の矢野二郎宮津市長、舞鶴市長、前尾繁三郎代議士、地元府会議員二氏始め宮津各界の重鎮をお迎えし、資金調達工事共に順調に進

森嶋外が自分の小説の種本としたのは説経節の「さんせう太夫」である。そもそも説経とは仏教の経典を講説すること

なつた。そして鎌倉時代には専門の唱導師となり、音曲が加わり物語へと変化し、江戸時代には説経節や浄瑠璃となり、時と場合によつて話の筋や内容が多様化していった。

ところで由良には米屋甚平版「山庄略由来」という貴重な版木が伝わっている。私たち地元民は何よりもこの伝説を大切にしなければならぬ。そこで小谷一郎氏の口語訳を基にその荒筋を述べる。(諸本では表記に異同があるが本篇では、以下「津志王」とする)

丹後の国由良郷の山庄太夫の由来をたずねてみる。六十二代村上天皇の頃この山庄太夫は丹波の国桑田郡川谷村(現在の美山町)の出身であつたが、②若い頃から商売のため此の地へやつてきて大雨が降つてもこの青木山から流れ出る水がきれいなのを見て何か鉱石が含まれているに違いないと考へて、此の里に住むようになった。山庄太

夫はすぐれた人物であるというので和江村の国分寺普請の時、丹後の地頭大江左衛門之尉時廉の命令で、国分寺普請の仕事一切を取り仕切るよう仰せつけられた。そこで山庄太夫は国分寺修復のためあちこちの金銀を勝手に寄せ集め自分の財産にしていった。多くの珍しい宝物が蔵一杯になり大金持ちになつた。千軒長者とはこの事である。③

奥州岩城の判官政氏は京都御所の警備に当たつていたが、氣儘が過ぎ、勤めを怠けていた。奥方の兄の大江左衛門之尉時廉が「政氏は病氣と嘘をついて謀反を計画している」と帝に中傷したので早速その罪状を調べられ、政氏は申し開きが出来なくなり遂に自害した。④その上本国奥州へも追手が向かうとの噂が流れてきたので政氏の奥方は御子津志王丸と安寿姫、召使い一人を連れ主従四人逃げ、領地は没収となられたのは全くお気の毒なことであつた。こうして四人はこれまでに無い辛い旅の

苦勞を重ね、夜を日についで逃げて行かれ越後の国高田城下の扇の橋にお着きになった。此処の山岡という者が従者を騙して奥方、津志王丸、安寿姫の三人を九助という者に売った。しかも九助は奥方を佐渡へ売り、津志王、安寿は丹後の国の山庄太夫に売った。⑤とところで山庄太夫は国分寺修復工事を成就した功績によって時廉より由良の庄、岡田の庄、河守の庄と合わせて三つの庄の代官に任命されたので、今はもう「上見ぬ鷹」の勢いで多くの家来をこき使いた家来には丁度牢獄の責苦と変わりなく、人々はみんな怨んでいた。それで津志王丸と安寿姫は此処へ来てから山庄太夫の召使いとなり木を切り田を耕すなど今までにしたこともない卑しい仕事にこき使われる目に会われたのは気の毒であった。⑥そのうちに大江時廉の命令として「岩城家の残党を生け捕った者には褒美を与える」という手配があつたので姉弟の二人はひそ

かに太夫の屋敷を抜け出され、和江村の国分寺へ逃げて行き和尚に申されたのは「私は女ですが弟は岩城家再興の大きな望みを持つ身ですから、どうか暫く身をかくさせて下さい」と繰り返し哀願されたので、和尚は快く承諾された。⑦そのあと安寿は津志王に向かい「私はこれから越後で別れた母上の御在りかを探してお知らせしましょう。お前は此処にしばらく隠れ、時節を待つて家再興の本意を遂げなさい」と泣きながらお別れになったのは気の毒だった。それから安寿姫は中山村と言つて和江村の少し北のかつえ坂という所でお亡くなりになったとか。現在此処を姫路がゆりと言う。お亡きがらは其の隣村の下東村の山奥に埋葬している。今此処に塚があると草が生い茂り名が残っているだけである。正月十五日が御命日だとか。一方津志王丸は和江国分寺にかくれておいでになるうち、間もなく伯父時廉の悪行が露見し

たので時廉は自害し家は滅亡してしまつたとか。それから和江村の佐藤関内という者が津志王丸のお供をして都へ急ぎ上京したが⑧丹波の国大江坂と言う所で、以前越後の扇の橋で別れた岩城の家臣に偶然巡り合い大変喜んだ。そして主君に申すには「今度伯父君時廉公の悪行が露見して岩城判官の無実が明白になり、岩城の遺児が生存するなら早々に参内しなさい」との高札が出されていいますから、岩城家の領地が返されますから、岩城家の領地が返すく都へお供しましょう」と関内にお礼を言つて、二人はお供して直ぐ津志王丸は参内されたので、父の領地であつた奥州五十四郡に丹後一國を添えて与えられた。⑨御母上は佐渡島で亡くなられたとか。⑩ここで山庄太夫は一族残らずお仕置きあり。⑪又、和江村の佐藤関内を始め和江に隠れておられた間、ご介抱申しあげた六人へいろいろご褒美御墨付など賜つたと言

う。近代までそれらを永く持ち伝えたが中世の頃焼失したり盗まれて無くなつた。しかし子孫は歴然と榮えた。国分寺和尚へも御恩賞があつたとのこと。誠に目出たかつた世の話の一部を取り集め書き記す次第である。

#### 旧 跡

- 一、柴勸進七曲峠にあり。此所で津志王丸が柴勸進されたという。街道筋にある。
- 一、首引松七曲峠にあり、山庄太夫が此所で御仕置きになつた。
- 一、由良村より半里程上に山庄太夫屋敷跡あり。前の川に一つ島がある。それが太夫の邸跡である。
- 一、護国山国分寺屋敷 和江村の奥にあり、山庄太夫がこれを焼失したのは村上天皇の天歷年中とか、今此処に毘沙門堂がある。
- 一、北野御膳宮由良村にあり安寿姫の分霊を迎え祀つたお宮である。
- 一、安寿姫塚下東村にあり街道

から四、五丁はいる。

一、鹿原山金剛院 平城天皇御太子真如親王の開基、鳥羽院女后美福門院の再建、その時の御奉行は平朝臣忠盛。此の寺に津志王丸の身代りの地藏があり肩に焼金の痕がある。本尊は不動明王、相応和尚の御作である。その他宝物がたぐさんあり田辺から三里余街道から五、六丁はいる。

一、和江村で津志王丸から御墨付拝領の人、佐藤氏、井嶋氏、山上氏、古森氏、加藤氏、犬嶋氏、以上六軒  
丹後由良庄 米屋甚平

以上が由良に伝わる山庄略由来の概要である。現在この版本は如意寺に大切に保管されている。この物語は明治大正に至るまで説経節その他で実に数多く刊行されており、その内容も年代を経るに従ってさまざまに変化して来ている。そこで比較的初期の説経節で而も由良の略由

来に近い内容の、主な変化を①から順次書き出す事にする。

①山椒のいろいろ 外に三庄、算所、山莊、散所、三莊、など説教浄瑠璃や芝居で使われた。  
②太夫の出身地 丹州氷上郡の産もあり。何れにしても悪人はよそ者である。

③山庄太夫の功罪 由良を発展させた功労者として讃えている。又太夫が私腹を肥やしたのが地頭時廉の命令によるものと、罪を半分かぶせて山庄太夫をかばっているのも甚平版の特徴である。

④政氏の最後 筑紫へ流されたというのもある。甚平版では簡単に述べられているが、政氏一家の離散の事情を物語の一つの山として、さまざまな人物を登場させているのもある。北の国ではこれが民衆に受けたのであろう。

⑤親子の別れ 直江津の港で山岡太夫という人買いにまんまと騙され、宮崎三郎に売られる。

しかも安寿と津志王は丹後の由良へ母は佐渡島(北海道というのもある)へ売られる。港を漕ぎ出した二艘の舟が途中で南と北へ別れるのを見て、親子は始めて騙された事を知る。供のうわたきは悲しみの余り海へ身を投げて死ぬ。思いもかけぬ海上での親子の別れに、姉弟は抱き合つて泣き叫ぶ語りは、聞く者の涙を誘った事であろう。

⑥由良での姉弟 姉はしのぶ、弟は忘れ草と名をつけられ汐汲みと柴刈りの重労働を強いられる。余りの辛さに二人が屋敷から逃げる相談をしているのを、三郎に立ち聞きされ、二人は額に焼金を当てられる。しかし目が覚めると焼金の跡は消え、代わりに安寿が母からもらつて身につけていた地藏菩薩の眉間に跡がついていた。

⑦安寿、津志王の別れ ある日姉弟二人は特別に許されて柴刈りに山へ行き、谷の清水で別れの杯を交わし、津志王独りが和江

へ逃げる。其のため安寿は三郎のむごい拷問に責め殺される。或は安寿一人中山へ逃げてかつえ坂で寒さと飢えて命を落とす。又、下東にある佐織池に身を投げて死ぬなどいろいろ語られている。一方津志王をかくまう事を承知した和江国分寺の和尚は、山庄太夫の追手の目を逃れるため津志王を皮籠に入れて縄を掛け本堂の棟の垂木に吊り、誓文のお経を長々と上げ

る。三郎が皮籠の中を怪しんで縄を切つて蓋を開けると、現れた金色の光りを放つた地藏菩薩に目がくらみ、又もや津志王は仏の加護で危うく難を逃れる。甚平版では説経節としては大切なこの部分に何故か全くふれていない。

⑧津志王の上京 和尚は皮籠に津志王を入れ自ら背中に負つて京都へ上る。中身を尋ねられると丹後国分寺の金焼地藏と答える心

⑨岩城家の再興 津志王を背負つ

た和尚は京都西七条朱雀権現堂へ着く。皮籠の蓋を開けると津志王は長い間の窮屈な旅の疲れで、足腰が全く立たない。和尚は何故か此処から丹後へ帰ってしまう。その後津志王は乞食同然の姿で土を運ぶ汚い車に乗せられ、里の童に引かれて大阪の天王寺へやって来る。津志王が石の鳥居にすがって「えいや」と一声叫ぶと、聖徳太子のお救いか、忽ち脚が立った。これは天王寺が救世観音の化身と言われる聖徳太子の聖霊が常在する所で、この靈験によつて人が再生したいという庶民の願望を意味すると考えられる。

次に梅津の院という大臣が津志王を養子にされる話が続く。世継ぎの無い梅津の院は天王寺へ参詣された際、百人の着飾った稚児には目もくれず、汚い姿の津志王を養子に選ぶ。そして津志王が実は岩城家の総領である事を、持っていた系図で示し岩城家の再興が許された。

⑩母の生死 その後津志王は母を尋ねて佐渡へ渡り、両眼を泣きつぶして盲目となり粟にたかる鳥を追っている母を見つけ、持つていた地藏菩薩を母の目に当てると目が開き、度重なる仏のご加護による再会を喜ぶ。

⑪山庄太夫一族の最後 丹後の国司となつて国分寺に来た津志王は広庭に山庄太夫を肩まで埋め、自分たちに、番残酷な仕打ちをした三郎に、父の首を竹の鋸で引き切らせる。由良の甚平版では七曲八峠で道行く旅人に鋸を引かせたと言う。これは山庄太夫一族をかばっているのか、民衆自身の手で太夫への恨みを直接晴らさせたかかったのか、興味が深い。

以上が由良に伝わる山椒太夫の物語の私の目に止まった主な変化である。この物語が民衆に、何故このようにもてはやされて来たのか、岩崎武夫氏は「続さんせう考」の中で次のように解説を締め括っている。

人間が人間の身代わりとなり献身と自己犠牲によつて救済し、社会への復帰を完うさせたこの話は、聞き手を深く感動させたに違いない。(中略)安寿の深く大きな愛に、原始の昔大地そのものであつた母神のような力と庇護の心を見出したかも知れない。あるいはまた、安寿をここまで追いつめてしまった状況の過酷さに、現実のそれを重ね合わせて、とくに差別視された賤民の境涯をわが身のように感じとつた聞き手もいたことであろう。

今日日本の各地で地域起しのいろいろな運動が行われている。地域発展の原動力となるのは、先ず住民の意識である。自分自身の住む土地の価値を再認識し、自信を持つて由良はよい所だと大いに自慢しよう。海、山、川が見事に一つにまとまつた美しい風景、人間の生存に最も大切な、きれいな空気と水、そして何物にも代え難い由良に伝わる貴重な財産であるこの「山椒太夫の伝説」を皆でもう一度じっくり見直したい。そのきっかけになればと考え、この拙文を草し諸賢のご批判を乞う。

## 参考文献

山庄略由來口語訳 小谷一郎  
さんせう太夫諸本について 中嶋和子

説経集 新潮日本古典集成

続さんせう太夫考 岩崎武夫

山椒太夫 森 鳴外

三庄太夫物語 山下庄兵衛

世界大百科事典 平凡社

## (付記)

本文中の「山庄太夫」「津志王」の表記は「山庄略由來」に拠る。他に「山椒太夫」と記した訳は現在の由良では「山椒太夫」また「厨子王」と表記することに決めているからである。  
因みに広辞苑・大辞泉等の辞書にも由良と同一の文字で記載されている。

(一九九九、五、二五)



# 京都府消費者生活

## くらしのアドバイザー

浜野路 中西 弘子

京都府では、悪質商法などによる、消費者被害の未然防止を図ることを目的に、ご相談窓口を設置しています。

数年前より消費者を取り巻く

環境は、急速に多様化・複雑化し、契約を中心とした消費者取引におけるトラブルが大幅に増加しています。

消費者の皆様、悪質商法にかからない様にして下さい。

もし万一被害にあわれた場合は、クーリング・オフと言って契約日より八日以内なら解約が出来る制度があります。

また悪質商法に限らず、地域の実情に合わせて、広く消費生活全般にわたる情報もお願いしています。

★次の点に充分注意して下さい。  
こんな場合は、クーリング・

オフが出来ません。

○価格が三千円未満で、かつ代金を全額払った場合。

○化粧品・健康食品等の消耗品を使ってしまった場合。

○乗用自動車等々

もし、消費生活に関するご相談がございましたら、

○市町村（消費者相談窓口）

○地方振興局商工課

○アドバイザー 中西 弘子

（電話 二六―〇二八八）

までお申込下さい。



# 川柳

大森 美智子

前向きの勇気へ若い血がたぎる

生き残る策をわたしも銀行も

ガンジスの河に沈めている祈り

飯沢 鳴窓

含み針抜いて作意を探りだす

罪ひとつ許す紫煙の輪がきれい

点と点結べば浮いて出る虚像

# 「標高六四〇米」

元主事 平間克己氏の死を悼んで

去る二月三日由良地区公民館運営審議会委員 平間 克己氏の葬儀が行われました。

平間氏は昭和五十二年から昭和六十二年まで公民館主事として積極的に公民館活動に取り組み、退任後は老友会長として活躍されたことは十分ご承知のところ です。

謹んでお悔やみ申し上げますとともにご冥福をお祈りいたします。

生前、平間氏が公民館だよりに投稿されたものに「標高六四〇米」がありました。

今年も五月三日に由良岳登山を行いました。当日他地区から登山に参加された方々に記念としてコピーを手渡し喜ばれました。以下原文のまま追悼の意味も含めて再掲いたします。

『愛しい雛を守る母鳥の如く由良岳の裾野が集落を大きく包んでいる。』

更に標高六四〇米の由良岳の頂上には「衆生が求める全ての物を自在に与える(知恵)と(福德)の虚空蔵菩薩」が見守つて下さる。

この虚空蔵菩薩の鎮座まします祠は明治初年以來幾多の暴風雨、地震に攪まざれながら微動だもせず百年の風雪に毅然として建ち続けている。この祠を建てた人、中西与作夫妻である。

そもそも由良岳に於ける「虚空蔵菩薩鎮座」の歴史は古く、奈良朝時代の山岳宗教の盛んな頃修験者の道場として「青葉山松尾寺」「世屋山成相寺」「由良山如意寺」として栄えた。特に中西与作一家は信仰心に篤

く、子供は一人娘で、その娘さんも佛道に帰依し晩年は「与作尼」と呼称し村民から慕われた。

毎年三月十三日虚空蔵菩薩の祭礼が由良岳頂上で行われた。与作一家は必ずお参りした。その度に木造の祠は朽ちる姿に拝みつつ心に痛みを覚え何んとかして永持ちする祠を建立しなくては虚空蔵菩薩様に相済まぬと思つた。

元来、与作さんの仕事は「田普請」と言つて山田造りの仕事で生活して来た。平地に耕作面積の少ない由良では勢い山田を求めたのも生き残る為の方法であつた。

与作さんは求める面積により勾配を計算し直角を決め高さを割り出し土留壁の高さとそれによる土台の根石の巨石を選定しそれを土手に操作し立派な山田を造つた。

田普請の絶対の条件は漏水しない事、次に仕上りの華麗な城

壁の如く見場の良い事である。

与作さんの名人芸は自然に人氣が出て「この次の田普請は是非私の山田を頼む」と引く手数多の盛況振りであつた。現在の山田の石壁は殆ど中西与作さんの遺作だと言われている。初めて夫から祠建設の相談を打ち明けられた時は猛烈に反対した。

親類縁者からも「一文の得にもならないばかりか仕事の内容から考えても体に無理だ、馬鹿者だ」と罵られた。永年連れ添つた妻として一度言い出せば後に引かない夫の性格、それに信仰心からの一途な決心である。

他人に見捨てられるならせめて妻位は支持しなくてはと同意してしまつた。これからは二人三脚の苦しい戦いである、それを知りながらの合意は夫婦の絆であろうか。

先ず仕事の分担、与作さんの泊る小屋を建てる事である。

丁度由良岳の八合目に石清水

の出る処と場所を決め、その事により登り降りの時間の無駄と疲労を無くし、仕事の能率を上げる即ち六四〇米の頂上の仕事は守備範囲である。

女房の仕事は子供の世話の外田畑の耕作それに最も大切な事は一週間に一度は一週間分の米、副食物、着替えの衣類、好きな酒、振り分け荷物にしても六四〇米の急坂を登つての食糧補給の役は女の身には将に苦難の連続である、例えば当日雨天でも登らねばならない、又期間的にも田普請が終る六月末頃からもそれぞれの降る頃迄の仕事それに初めの年は簡単な小屋を建てるにしても雨露を凌ぐ藁葺の屋根の材料運び、床板、窯造り、出入口の戸、水瓶、ランプ、鋸、釘、仕事道具等の運搬は二人で行った。小屋さえあれば雨の日は祠上の扉の小細工も出来る、この調子で計算しても二ヶ年以上はかかるだろう、女房の身になれば、もし私が倒れたなら夫の念

願も潰える事になると自らを励ましこの目で祠の完成を見るまではと決意した。

長い月日には二人の間にはこんなエピソードもあった。

今でもお年寄りの笑い話となつている、当時の世相は幽霊や化け物が出る話は実際に見たと言う話等あつた時代、丁度その日は秋祭りであつたが与作さんは下山せず仕事をしていた。

一方奥さんは朝早く起き、与作さんの好きな「ぼた餅」を造り食べさそうと近所に子供を預け急いで山へ登つて行く。

山上の与作さんは仕事をしながら下から風に乗つて聞える祭り囃子を聞いていた。奥さんにすると折角の「ぼた餅」早く食べさそうと途中の休み回数を減らし息咳切つて登つて来たのだから顔の相も鋭く別人に見えた。

与作さんは人の足音に気がつき上を向いた途端、女房に少し似ているが違う、さては人の言う狐が化け、然も女房に化ける

とはと早合点し俺はお前達けどものには騙されんぞ、まだ毫碌はしてないぞ、早く逃げな捕えて殴り殺すぞと恐ろしい形相で立ち上がった。奥さんは暫く阿然として立ち竦み石の上に「ぼた餅」を置き阿保らしく思いながら一言も喋らず下山した。

与作さんにすれば糞でこしらえた「ぼた餅」と見て落ちていた細い枝で「ぼた餅」を突き刺し鼻所迄持ち上げ匂いを嗅ぐが糞の匂いはせず、餡の甘い匂いがする、「しまった、狐ではなかつたのか、正真正銘の家内だつたのか」と思ったがそれでも半信半疑で下を見下ろし、明治初年頃は人家が疎らで帰る田圃道が見えた、小走りで急いで帰る女房の後姿を見ると立腹しているだろうと思つた。

次の食糧補給日に謝るより仕方なしと折角の「ぼた餅」にかぶりついた。この日の「ぼた餅」の味は格別だつたらう。

祠の規模は由良川を正面とし

横(東西) 九米六〇糶、縦(南北) 六米六〇糶、高さ一米二〇糶の立法体の祠の基礎である。

周囲の土止壁は与作さんの得意の石積みで正面には中央石段(一米巾の七段)あり、この台場上に祠の基礎台から祠の頭まで二米高さで頭の部分は兜式で風を切る為の構えか。

祠の周囲は祠を守るが如く願い石が積み重ねてある。又祠の西側一米五〇糶に石灯籠が一つ立っている。

祠の姿はまるで敵に一分の隙も見せぬ剣聖の如く、時には烈風を切り裂き地震の上下動、水平動が襲つてもますます基盤が締まる祠に崩れがない。

祠の台座の周囲三二米四〇糶高さ一米二〇糶に使っている石数は大小合せて約一千個以上である。工法は田普請と同じで表面石壁とそれを支える裏込み石が楔となつて土留めの役を果たすその為台座が崩れず祠を守る。

古老の話では、小屋附近に多く

の石が集積されていたとの事、然し八合目から急勾配なのに石を担いで登ったとは驚くばかり。

こうして完成した祠は烈風の吹く寒い日にも泰然自若し対処するが、毎年四月廿九日由良公民館、由良登ろう会共催の由良岳登山は、うららかな春日和、慈悲溢れる祠を感じ「又今年も元氣にお参り出来ました」と手を合わす、実に神秘的な祠である。

更に与作さんには祠の外にもう一つ念願があつた。それは由良岳を少しでも高くしたい事であつた。

由良岳の南に赤岩山があり、由良岳より二九米高く東に丹後若狭境に由良岳より五九米高い青葉山がある。

早速、虚空蔵菩薩に「願」を懸けた結果、数え年十三才の子供に石を持って参らせ、その石を高く積み上げる事によりその子供の願が叶えられるお告げがあつた。

これが所謂「十三参り」の風

習となり有名になつて広がり、多くの人が近在近郷より集まつたが、この風習も終戦と同時に少なくなつた。

古老の話では、この願石は先ず海水で清め藁縄でくくり念願を唱えながら積み上げる。それで海草に産みつけた舟虫の卵がかえり由良岳山頂に沢山の舟虫が居たとの事だが現在は一匹も居ない。

又、祭礼日の十三日や十三参りの十三について虚空蔵菩薩は十三仏中の十三番目に当たる。

- 一、不動明王
  - 二、釋迦如来
  - 三、文殊菩薩
  - 四、普賢菩薩
  - 五、地藏菩薩
  - 六、弥勒菩薩
  - 七、薬師如来
  - 八、観音菩薩
  - 九、勢至菩薩
  - 十、弥陀如来
  - 十一、阿閃如来
  - 十二、大日如来
  - 十三、虚空蔵菩薩
- 以上十三の数がついたものと思う。
- 信仰心の篤い中西与作夫妻とは云え経済的にも恵まれず心なき人に悪評を叩かれながら立派に完成したが売名的でなかつた

故か知らない人が多い。

市役所で与作さんの事を調べてもらつたが未だ戸籍法の制度なく不明、若しかしたらと松原寺の過去帳に残っていないだろうかと尋ねたら佛縁と申しました。うか、幸いにも見つかりました。

戒名 郭然自性信士(与作事)

死亡 明治十年二月二十九日

戒名 即心戒如信女(与作妻)

死亡 明治十九年二月十六日  
立ちあつて下さつた藤原慧等師曰くこの戒名は「格調の高い立派な戒名だ。」

名も無く貧しく美しく死んで行つた中西与作ご夫婦に改めて此処に謹んで御冥福を祈りあげらる。』

(飯澤 記)



由良岳登山記念スタンプ

編集後記

木々も新緑から若葉へと変身し、嫌な梅雨の訪れも間近になつて参りました。

平成十年度も皆様方に支えられ、無事に終えることが出来ました。厚く御礼申し上げます。

平成七年より雨で中止となつていました、運動会を、九月五日(日)雨の場合は九月十二日(日)に行うことが、新年度公民館運営審議会で承認されました。

競技種目等も役員の方々と共に見直し工夫し、一人でも多くの方が気軽にご参加していただける様に取り組んで参ります。本年度もよろしくご指導、ご協力を賜りますようお願いいたします。

酒田



